

病虫害発生予察指導情報

(カキ・炭疽病)

令和4年8月26日
鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

8月下旬現在、一部の地域でカキ炭疽病の果実被害が認められています。また、向こう1か月の気象予報（8月25日、広島地方気象台発表）から、今後、カキ炭疽病の発生に好適な気象条件となることが予想されます。防除暦に従った防除を実施し、降雨量が多い場合や散布間隔が長くなる場合には追加防除を検討してください。

2. 情報の根拠

- (1) 昨年の発生量が多い地域があり、本年も7月上旬以降に枝病斑が認められている。
- (2) 県西部の現地園4園における平均発病果率は1.0%であり、被害が認められている（表1）。
- (3) 向こう1か月からカキ炭疽病の発生に好適な気象条件となると予想される。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 長雨で散布間隔が長くなると発病が増加するため、定期防除を徹底し、降雨前の防除を心がける。
- (2) 防除薬剤は、ストライド顆粒水和剤3,000倍液、ナリアWDG2,000倍液、オンリーワンフロアブル2,000倍液などを使用する。
- (3) 定期的に園内を見まわり、発病が認められた果実や新梢（図1）は直ちに切除して、埋めるか園外に持ち出して処分する。枝病斑を探す際は、主枝や垂主枝から発生した新梢や二次伸長している枝を中心に観察する。

表1 県西部ほ場4園におけるカキ炭疽病の発生量（8月24日時点）^{a)}

園地	調査果数（果）	発病果率（%）
A	300	2.0
B	425	1.2
C	300	0.7
D	300	0
平均	331.3	1.0

^{a)}西部農業改良普及所及び農業振興監経営支援課の合同調査による。

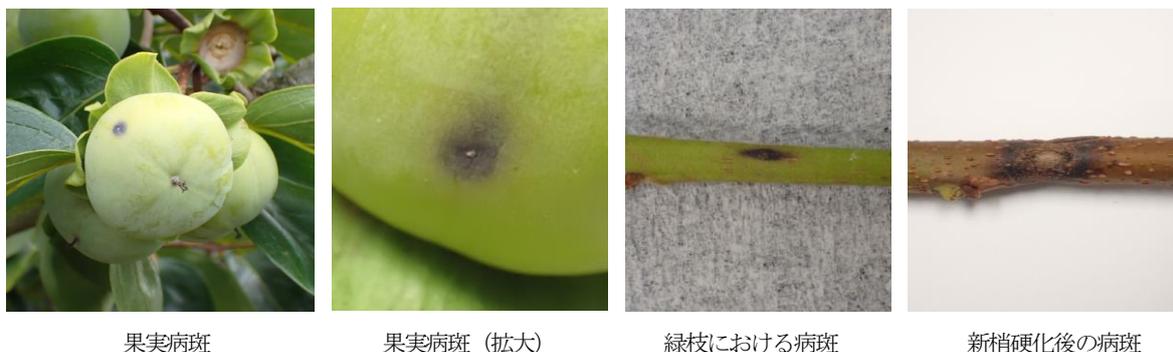


図1 カキ炭疽病の発病部位